

ペルーで水浄化事業

ネオナイト工場排水対応

水処理のネオナイト（松江市）は、工場排水による汚染が課題となっているペルーで水質浄化事業に乗り出す。国際協力機構（JICA）の調査事業に選ばれ、4月に現地調査を始める。

島根県産の天然鉱物ゼオライトを使つた簡易な処理システム普及を目指す。

ペルーでは工場排水を海

に放流するなど処理の仕組みが整つておらず、環境汚染が問題になつていて。昨年9月、基準値を超える排水に課徴金を科す制度が導入された。同社は市場調査を進めて秋にも現地企業と合弁会社を設け、排水を処理するプラントの現地生産につなげたい考えだ。

重金属や有機物を吸着す

るゼオライト処理剤は、複数の化学薬品を使う従来の方法より簡単なプラントで済む。寺山文久社長は「高度な処理を現地に合った形で確立したい」と話す。鉱山から出る重金属を含んだ廃水の処理についても調査する。将来はチリや

ボリビアへの展開も目指す。中小企業の海外展開を発展途上国の課題解決につなげるJICAの連携調査事業に、中国地方で唯一選ばれた。JICAは調査費を最大1千万円負担する。

(明知隼一)